



## 教授の呟き

### 第51回

# 進歩しているか、物流の情報システム

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

#### ●●●身近な生活情報機器

1994年の夏にマニラに赴任したとき、当時の日本では普及していなかった携帯電話とポケベルを買い求めた。安全のためとはいえ、重要人物か(?)と錯覚して、少し浮かれた気分になった。1年後に帰国したら、日本でも爆発的に携帯電話が普及していた。ちょうどウィンドウズ95が発売された年でもある。

インターネットのおかげで、メールも使えるようになり、旅行の手配も通信販売も手軽になった。カメラもデジタルになって、原稿に画像を載せてインターネットで送ることもできる。「先生、本当にケイタイでメール打てるんですか?」などと、学生には冷やかされるが、おぼつかない手つきで打つ携帯メールも結構重宝している。

遅まきながら、2年ほど前にカーナビを取り付けた。「いつも同じ場所しか行かないのに、なぜカーナビが必要なのか?」という家族の素朴な疑問には答えられないままだが、混雑具合は分かるし、空いている道を教えてくれるので、使ってみると便利である。

#### ●●●後戻りできないIT生活

「携帯電話を初めて手にしたときは便利さと技術に興奮したが、すぐに慣れてしまった。でも無くしたときは、本当に困った」。これは、携帯電

話を紛失した友人の弁である。

いくつかの情報機器に囲まれて生活するようになると、その便利さが当たり前になり、手放せなくなる。もちろん携帯電話が無くても生活していたのだから、昔に戻れば良さそうなものだが、後戻りは至難の業である。

なぜなら携帯電話やインターネットの存在を前提に仕事が回り出すと、もう抜け出せなくなるし、放棄したら世間から取り残されてしまうからである。

#### ●●●先取りできるか、新システム

一方で、携帯電話を持っていない人は、なかなか便利さを実感できず、かつ不便さも感じないようだ。これと同じように、本来あるべき情報システムが欠けていたとしても、現状に慣れ親しみ、満足していれば、新たな情報システムを想像したりイメージすることは、とても難しいことだろう。

宅配便やコンビニは、今でこそ当たり前になって生活に欠かせないが、これらの事業を始める当初は相当な反対があったという。革新的な先駆者によるブレークスルーがなければ、新たな段階に進めないこともありそうだと。

物流にかかわる情報システムは、携帯電話やメールのように十分に進歩してきているのだろうか、それとも宅配便を始めるときのようにブレークスルー以前なのだろうか。

